

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年3月29日

社会福祉法人つぼみ会
滝野川北保育園

御中

〒160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

	修了者番号		担当分野	
	①	H1701075	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
③	H1801081	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	
④	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
⑤	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営	
⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営	

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)			
福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	滝野川北保育園		
事業所連絡先	〒	114-0023	
	所在地	東京都北区滝野川3-79-1-101	
	Tel	03-5907-6220	
事業所代表者氏名	佐藤 祥之		
契約日	2023年	9月	1日
利用者調査票配布日(実施日)	2023年	11月	14日
利用者調査結果報告日	2024年	2月	3日
自己評価の調査票配布日	2023年	11月	14日
自己評価結果報告日	2024年	2月	3日
訪問調査日	2024年	2月	13日
評価合議日	2024年	2月	13日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。		

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、子どもを一人の人として尊重する ・子どもの発達に合わせた丁寧な保育を行うための乳児育児担当制保育 ・多様な人間関係の中で、社会性を育む幼児クラス ・自ら体験し考えたことを自分の言葉で伝えられる、主体的に生きることができる力を育てる ・子ども一人ひとりの力を信じた主体的な活動を引き出す見守る保育
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを大切にしながらしっかり向き合い、安心と信頼の中で主体的な生活を送る手助けをすることができる人 ・保育や発達について理解を深め、感覚ではなく、何のためにやっているのかを理解したうえで実践できる人 ・子どもの権利や人権を大切にしようと考えられる人 ・発達について学び、自主的、主体的になんでもチャレンジしてみようとする気持ちを持つ人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者は子どもにとって最も身近な社会モデルであるという自覚を持つ ・基本的な生活習慣を子どもとともに実践していき、ともに生活することを大切にしていく ・常に自己研鑽を行い、保育能力だけでなくそれぞれの個性や人格に誇りを持ちながら大人子どもではなく人と人との関わりを大事にしていくことを考え、人間力の向上にも努める姿勢を持つ

調査対象	調査開始時点での当園の利用世帯122(在籍児童数141)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。
利用者総数	141
利用者家族総数(世帯)	122
共通評価項目による調査対象者数	122
共通評価項目による調査の有効回答者数	76
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	62.3

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」21.1%・「満足」50.0%の計71.1%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「プライバシー保護」「食事」「急な残業等への配慮」など全17問中7問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「先生方皆さんが子どもたちの名前等を把握していて、些細なことでも先生同士で共有しているのか、よく子どもたちのことを見て知ってくれていることで、先生方皆さん笑顔で保護者も元気をもらえている」「先生方が皆優しく子どもをしっかり見てくれていて、食事がおいしそうで、園庭も広く、新しい玩具を定期的に入れてくれたり、行事もリズムの手づかみや芋煮、遠足もあって楽しめており、仕事でのお迎え遅れも柔軟に対応してもらえてありがたい」「給食はよく工夫されていて、子どももよく食べているようで、特に日本の各地域の郷土料理、世界の料理を作ってくれ、展示の際に説明を加えて紹介しているのはとても素晴らしく、掃除もよくしている印象がある」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、日常の保育内容、安全管理・保健衛生、人員配置、職員の退職・異動などへの懸念に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	70	5	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が6.6%、「いいえ」が1.3%となっている。 自由意見は6件で、「子どもたちは先生方を信頼している様子である」「同年齢の友達との関わり方を学べていると思う」のほか、日々の活動内容や戶外活動のさらなる充実を望む声が見られる。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	54	19	2	1
「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が25.3%、「いいえ」が2.7%となっている。 自由意見は6件で、「わらべうたなど親が教えることが難しいものも採り入れているのがよい」のほか、日頃の戶外活動等について、さらなる検討を望む声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	69	5	2	0
「はい」が90.8%、「どちらともいえない」が6.6%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は4件で、「おやつがおいしそうで、いつもこれ食べたよ！ 」と言ってくれる「毎回食事がおいしそうである」のほか、メニューやお茶のコップの使用方法について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	41	16	17	2
「はい」が55.4%、「どちらともいえない」が21.6%、「いいえ」が23.0%となっている。 自由意見は18件で、戸外活動等や行事のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	48	5	0	23
「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%となっている。 自由意見は、「急な対応が仕事で発生してしまった際、大変助けられた」「休む予定だった日にも関わらず、急な用で預けても快く対応してくれた」「ありがたく、助かっている」の3件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	46	24	6	0
「はい」が60.5%、「どちらともいえない」が31.6%、「いいえ」が7.9%となっている。 自由意見は18件で、「園庭で遊べて外に出ることが少ないので、安全でよいと思う」のほか、外部侵入対策や感染症対策、設備面、保育中の安全管理、虫刺され対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	52	14	3	7
「はい」が75.4%、「どちらともいえない」が20.3%、「いいえ」が4.3%となっている。 自由意見は8件で、「土曜日にしてくれるのでありがたい。先生たちは大変だと思う……」のほか、行事の日程における各家庭の負担や就労等への配慮について、さらなる検討を望む声が見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	56	18	2	0
「はい」が73.7%、「どちらともいえない」が23.7%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、「おしゃぶりや寝つきの相談などに乗ってもらった」「廊下でも先生方が話しかけてくれる」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告や職員の対応の差について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	58	14	4	0
「はい」が76.3%、「どちらともいえない」が18.4%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は7件で、「掃除はしてくれている」のほか、清掃・整理整頓や衛生管理、設備面について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	61	11	4	0
「はい」が80.3%、「どちらともいえない」が14.5%、「いいえ」が5.3%となっている。 自由意見は4件で、職員の保護者・子どもへの言葉遣いや挨拶、服装について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	60	9	4	3
「はい」が82.2%、「どちらともいえない」が12.3%、「いいえ」が5.5%となっている。 自由意見は5件で、「その時の様子はしっかり伝えてくれる」「わが子については不信感はない」のほか、ケガ等の把握・対応や保護者への連絡、看護師の配置について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	42	15	2	17
「はい」が71.2%、「どちらともいえない」が25.4%、「いいえ」が3.4%となっている。 自由意見は3件で、「よく見てくれている」「先生は本当によくしてくれている」のほか、子ども同士のトラブル等の把握や子ども一人ひとりへの配慮・目配り、保護者への情報提供などについて、さらなる検討を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	66	8	0	2
「はい」が89.2%、「どちらともいえない」が10.8%となっている。 自由意見は2件で、「対応してくれる先生は本当によくしてくれる」のほか、子どもの気持ちを大切にしたい対応、保育者の子ども一人ひとりへの関わりについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	60	5	1	10
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が7.6%、「いいえ」が1.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	55	16	5	0
「はい」が72.4%、「どちらともいえない」が21.1%、「いいえ」が6.6%となっている。 自由意見は5件で、「毎日のコドモンでの連絡が詳細でわかりやすい」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	47	12	5	12
「はい」が73.4%、「どちらともいえない」が18.8%、「いいえ」が7.8%となっている。 自由意見は7件で、「以前、上席の先生に相談して、職員で話し合った結果も報告してくれた」「要望を伝えた際、対応してもらえることになり、ありがたく思っている」「不満を感じたことがない」のほか、保護者の不満・要望等への傾聴姿勢や対応について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	13	5	35
「はい」が56.1%、「どちらともいえない」が31.7%、「いいえ」が12.2%となっている。 自由意見は2件で、外部の意見窓口の周知について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育の柱となる理念等を各種媒体で発信し、関係者に周知させている 法人共通の保育理念「ひとりひとりを大切に」をもとに、目指す保育・教育と保育目標・方針を定め、法人のホームページや「園のしおり」に掲載するほか、園の事務室や廊下に掲示して職員や保護者の目に触れるようにしている。職員には年度初めの園長の所信表明時や、年4回の職員との面談時に伝えている。指定管理者として、運営を開始して2年目を迎える当園では、公立園の運営方針を継承しつつも、保護者には見学や入園時の説明や園だより等で報告する子どもの様子から、法人共通の大切にしていることが伝わるようにしている。	
	職員が不安なく職務を全うできるよう、経営層が園の運営にあたっている 年度の事業計画書には、園長から一般の保育士までの職位や職種に応じた職務内容を示した「職務分担表」を掲載し、年度当初の方針説明時に職員に伝えている。また、この際には年度の事業計画等をもとに、保護者との信頼関係の形成、公立園時代の保育内容を継承しつつ、法人共通の保育内容を採り入れて充実を図ること、基盤とする保育の定着に向けた職員の研鑽、地域支援の拡充等の重点項目の説明とともに、園長が当年度の所信を表明している。説明を通じて心理的な安全を確保し、職員が安心して職務にあたるよう、園長が園の運営に努めている。	
	案件に応じた検討・決定の仕組みが整えられ、必要な内容は関係者に周知がなされている 毎月1回法人の園長会では、各園からの状況報告や法人からの伝達がなされている。園内の各種案件は内容に応じた会議体で話し合われており、行事会議やクラス会議、乳児・幼児の各会議等は、必要に応じて適宜開催するほか、昼礼や事故防止委員会、給食会議や職員会議等は毎月1回開催し、園内の各種案件の最終的な検討・決定は職員会議で行っている。決定事項等の必要な情報は、議事録の供覧や出席者からの口頭報告によって組織内で周知され、保護者には通信アプリによる配信、園内掲示や書面の配付等によって伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		○非該当
カテゴリー2の講評			
法人本部や園のアンケート等を通じて保護者・職員の声を収集し、運営の参考としている 法人本部が保護者に行うウェブによる意向調査では、設備や安全安心に関わる園の環境、園長や園行事に対する満足度、保育内容等について確認しており、結果で気になる点は朱記表示し経営層間で共有のうえ、職員への注意喚起等を行っている。行事後にもアンケートを行い、寄せられた感想から課題を抽出して次年度の行事の参考としている。職員の意見等は会議で把握するほか、意欲や人間関係、仕事に対する満足度等に関する職員の意向調査を法人本部が行い、経営面の参考とし、園長による職員との面談を通じて把握した悩みに対して必要な対処を行っている。			
地域のニーズや状況、業界の動向や経営状況の把握に努めている 園の見学者や子育て支援の利用者に対して行うアンケートを通じて、身近なニーズの把握に努めている。教育・保育等の地域の状況は、近隣の3園の園長が集まる会や区の私立保育園園長会、園長が参加する地区の青年会等での意見や情報交換などから収集するほか、区の発信物等から不審者等の情報を得ている。福祉業界の動向や行政の施策等は、区や法人の園長会、所属する団体からの研修や発信物などを通じて把握している。また園の経営状況は、法人本部の会計責任者や契約する税理士と連携しながら、予算の立案や毎月の執行状況を確認している。			
中長期とこれと連動する単年度の事業計画が整備され、職員と共有している 5か年の「中長期経営計画」を策定しており、同計画では施設設備及び乳児・幼児の保育、その他の項目に対して、各年度でのそれぞれの重点項目とその取組や目標を掲げ、当年度を起点として毎年度更新する仕組みとなっている。年度の事業計画では、保育及び給食・食育の充実に関する方針・取組、保健と園内外の研修の予定、職務分担表のほか、保護者への園の理解を深めるための取組、職員の育成や職員間の連携などを年度の方針として記載して職員に説明し、年度事業報告で振り返りを行っているが、中長期の振り返りについては工夫の余地がうかがえる。			

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
職員としての遵守事項等を明示し、研鑽等を通じて理解と徹底を促している 就業規則の服務規程に、社会人としてのあるべき姿としての遵守・禁止事項や情報管理に関する方針を示している。また今年度から運用を開始した「職員ルール」では、法人職員としての心構えとともに、服装や身だしなみ、衛生面や出退勤・休息、スタッフ同士の基本行動や保護者に対する基本姿勢、表情・態度に対する基準を示し、昨年度末には、読み合わせにより職員への周知を図っている。園では、公立園の保育指導基準としての、NG用語OK用語集も活用して子どもとの適切な関わりを職員に示すほか、法人研修にて理解を深める機会を設けている。		
利用者の権利擁護のための虐待の防止や苦情解決の仕組みを整えている 虐待の定義や園の役割、関係機関との連携等を定めた虐待防止に関する手引書を整備し、視診等で虐待の早期の発見に努め、察知した際は関係機関への通告とその後の連携を図る仕組みとなっている。「園のしおり」には、意見・要望解決のための仕組みとして、苦情解決のフローとともに、受付・解決の各責任と第三者委員の氏名と連絡先を掲載し、入園時に説明するほか、玄関付近にも苦情の受付・解決の責任者と第三者委員の氏名と連絡先を掲示して制度の周知を図っている。保護者から意見・要望等は口頭で寄せてもらい、速やかに対処することとしている。		
地域の一員として、地域との関係づくりや貢献に努めている 園の基本情報は、園や区のホームページ等で発信されるほか、地域向けの子育て支援として行う、一時保育や園庭・室内開放、身体測定等の開催情報も区から配信され、児童館に案内パンフレットを設置して自由に手に取れるようにしている。ボランティアや保育士養成校からの実習生は、体制を整えて受け入れを行っている。区の私立保育園園長会や青少年委員会に園長が参加し、地域の課題について意見交換を交わし、イベントに協力するほか、神社を管理するボランティアと交流するなど、地域の一員として地域との関係づくりや貢献等に努めている。		

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>各種重要リスクの発生に備え、マニュアルの整備や訓練等を行っている</p> <p>SIDSやアレルギー、事故の発生等の重大事故、火災・地震・災害等の対応、不審者や感染症、虐待対応や衛生管理など、重要リスクの対応手順を定めたマニュアルを整備している。法人の入職研修で学ぶほか、消防署と連携したAEDや心肺蘇生法の訓練、園の看護師による嘔吐処理やアナフラキシーショック時の対応手順の確認等を通じて、職員に各種手順の理解と徹底を促し、万一の事態に備えている。感染症の流行時における法人策定の事業継続計画(BCP)を備えているものの、災害時を加えた園としてのBCPの策定を進めている。</p> <p>安全な保育提供に向け、さまざまに取り組んでいる</p> <p>SIDS対策として年齢に応じた間隔で子どもの睡眠時の呼吸等を確認するほか、夏季の熱中症対策として、暑さ指数を確認して戸外活動の判断を行うとともに、水分補給にも配慮している。今年度、園庭で遊ぶ子どもの様子を撮影した写真をもとに、そこに潜む危険を予測する訓練を行い、各職員が予測した危険を共有することで、危険に対する職員の意識の底上げを図っている。事故・ケガ・ヒヤリハットについては個別の様式で事例を記録し、「事故発生防止委員会」にて分析・検討及び必要な処置を行い、事故の再発や未然の事故防止に努めている。</p> <p>取り扱う各種情報の適切な管理に向け、ルールを定め職員と共有している</p> <p>個人情報保護に関する方針等は、ホームページや「園のしおり」に記載し、保護者には入園時に説明のうえ、同意を確認している。職員には入職時に啓発を行うとともに守秘義務等に関する誓約書の提出を課している。「職員ルール」にも情報の取り扱いに関する項目を設け、昨年度末に内容を職員と確認している。園で取り扱う各種重要書類の適切な管理に向け、紙媒体の書類は、施錠可能な棚にて保管するほか、PC類も事務室で保管し、データも含めパスワードによるアクセス制限を設け、情報の漏洩防止に努めている。</p>		

5 カテゴリー5		
職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる <input type="radio"/> 非該当
カテゴリ5の講評	
<p>法人と園が連携しながら人材の確保に努め、適材適所の配置を行っている</p> <p>人材の確保に向け、施設の園見学等で法人の各園が法人と連携するほか、保育フェアへの出店や学校訪問、外部業者や法人の募集サイト等の多様な方法で募集活動を行っている。法人の募集サイトでは動画で園の一日の流れを紹介するほか、所定の時間内の退勤を原則とする「定時出勤定時退社制度」を掲載し、採用や見学、説明会への申し込みや、オンラインによる面接の対応を行っている。入職後の職員の異動は、法人が判断し、園内のクラス配置は、各人の意向を踏まえつつ、職員のバランスやキャリア形成等を考慮して園が決定している。</p> <p>人事考課と連動する評価制度、研修体系を整備し、職員の育成を支援している</p> <p>職種や職位ごとに求められるスキルとこれに対する評価基準を示す法人共通の人事考課制度が設けられ、これと連動する人事考課表では、上・下半期単位で、職員が個人目標の設定と振り返りと、基準に基づいた評価を行い、昇給や賞与に反映する仕組みとなっている。また職種や職位に応じた法人の研修体系が定められ、受講する研修の対象者を示した年間計画が策定されるほか、目標管理に示した職員の意向を踏まえた研修を受講させるなどして、職員一人ひとりの成長を支援している。</p> <p>同僚性を高める工夫やチームワークの促進を通じて組織力の向上につなげている</p> <p>上記の通り、法人の研修体系に沿った年間の研修計画をもとに研修を職員が受講するほか、目標管理に基づいて各職員が受講したい研修を受けられるようシフト調整を行っている。各研修参加後には研修報告書の回覧等によって知見や、園内研修で行った危険予知訓練では、危険に対する各職員の視点等を共有している。また各種会議での職員間の意見交換を通じて各職員の気づきを共有する等、同僚性を高める工夫やチームワークの促進を通じて組織力の向上につなげている。</p>	

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>当園の指定管理者として公立園から運営を引き継いだ2022年度は、継続して園を利用する家庭が安心して子どもを預けられるよう、丁寧な対応や説明を通じて保護者との信頼関係の形成を図ることとした。 運営を引き継ぐ前の2021年度末には、オンラインによる保護者向けの説明会を行い、公立園で行っていた行事の継承と実施等の運営方針や2022年度の年間の見通しを説明したほか、不安の解消に向け、希望者に対して園長が面談を行っている。 園の運営を開始した2022年度には、当年度と昨年度の職員配置及び体制の比較表を配付して伝えたほか、保護者から寄せられた質問や意見に対する回答や園の考えを伝えている。 また年度当初の懇談会では、保護者の安心につなげられるよう、年間の保育方針や写真を活用して4月から子どもの様子を伝えるなど、丁寧な説明と対応に努めていった。 また職員に対しても当年度の方針を年度当初の所信表明時に説明し、共通認識のもとで園の運営を進められるようにしている。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>保護者との信頼関係の形成に向け、保護者への丁寧な対応や説明に努めたものの、説明による理解を得るための発信が足りなかったと反省している。また、幼児クラスでは、園外活動の機会については、保護者のニーズと園の考えに違いがあったことがわかった。今年度は昨年度に引き続き、保護者とのさらなる信頼関係の形成に向けて取り組むとともに、散歩等の園外活動については、地域との交流や社会資源の活用という観点で柔軟に対応することとした。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

指定管理者として園の運営を開始した昨年度は、法人の各園からの異動や新規に採用した職員で構成する体制であったため、法人として大切にする育児の考え等の、目指す保育の組織内の理解浸透を図り、その定着を目標に取り組むこととした。
乳児クラスでは、育児担当制の保育の実施や給食の配膳手順の統一のほか、子どもが自由である時間や空間を保障するため、職員の指導や環境の整備に取り組んだ。
現場のリーダーが中心となって保育を進める中でのOJTや園長・副園長・主任がわかりやすいようにかみ砕いて説明するなど、つど育児の仕方について知らせ、食事の配膳の順番などの周知を図っていた。また玩具棚や幼児の玩具の入れ替え、環境設定に力を入れるなど、子ども達の年齢発達に見合った玩具や環境を整えていった。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

乳児の担当制保育については、公立園も同じ方針だったため、スムーズに行えたことで、一日の生活が安定して過ごせる姿が見られたほか、食事の配膳や日課が定着できたと考えている。
幼児クラスでは子どもの生活習慣や、職員による理解度などにより、自由である時間や空間の保障した保育については、工夫の余地があると考えている。
今年度は、子ども一人ひとりの発達の違いをより一層認識したうえで、子どもとの関わりを意識しながら、昨年度の取組を継承することとした。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>法人・園のホームページでは、法人共通の目指す保育や特色、園の概要を発信している</p> <p>法人・園のホームページでは、法人共通の目指す保育「ひとりひとりを大切に」や、「乳児クラス(0~2歳児)は安心感の保育」「3歳からはのびのび保育」といった保育の特色などを表明している。また、代表からのメッセージを動画で掲載するほか、自動会話プログラムを活用し、入園や保育時間・料金、給食・昼寝・生活など閲覧者の気になる事項の回答が得られるようにしている。また、園のページには園の概要や準備物・費用などの情報のほか、子どもたちの活動やその時の姿がわかるよう、写真を添えた日記を随時、公開している。</p> <p>行政との連携を図り、園に関するさまざまな情報を公開している</p> <p>北区のHPには、保育所等への入園に関する情報が掲載されており、各園の年齢別定員ごとの空き状況と申込数が時期によって公開されている。当園のページでは、「子どもを真ん中に、保護者の皆様と手をつないで歩んでいく」というモットーとともに、保育方針や園の特色、施設の設備や定員・開園時間・実施事業などの概要が掲載されている。また園舎内と園庭の各所を写真とコメントで紹介している。さらに第三者評価を受審し、結果を「福ナビ」に公開するなど、多様な情報公開によって、在宅においても、詳しい情報が取得できるようになっている。</p> <p>積極的に見学を受け入れ、園の雰囲気や大切にすることが伝わるようにしている</p> <p>見学は希望日を踏まえ、適宜可能な日程で調整しており、子どもの活動が見られる午前を中心に、個別の対応で、園の雰囲気や大切にすることが伝わるようにしている。見学時には、子どもの遊びを大切にし、大人が入りすぎず見守ることなど、子ども主体の保育のほか、乳児での担当制のもとで生活面の細やかな支援や、幼児で取り組む「コーディネーション運動」「ハッピータイム」等の園の保育の特色を伝えていく。その他、保護者の質問等に答え、理解が深まるよう配慮している。</p>		

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
○非該当	
サブカテゴリー2の講評	
利用開始にあたっての重要事項を保護者に説明し、同意を得ている 入園決定者には全体会を開催している。当日は視覚的な工夫を凝らし、投影したものを見せながら、園長・主任が分担して、園の保育の方針や特色、日頃の保育や年間行事といった具体的な取組のほか、ケガや体調不良時の対応、保護者との連携など、利用開始にあたっての園の仕組みやお願い事項などを説明している。その場での質疑応答を行うほか、面接の際には質疑応答や補足の説明をしており、これらのおかげで、重要事項や個人情報に関する同意確認を行っている。また、実際の利用開始後にも質問に答えたり、担任から説明するなどのフォローをしている。	
子どものこれまでの育ちや現状などを把握し、その後の支援に活かしている 子どもに関する食事・生活や健康など、これまでの状況を面接時に確認している。保護者の記入・提出した「家庭状況調査票」や「入園までの生活状況」などを確認しつつ、食事・睡眠・排せつ・着脱・遊びなど生活リズムや発達面などのほか、保護者の気になることや要望などを聴き取っている。また園生活の援助に活かせるよう、寝る時のポイント等を聞いたり、子どもの食事の状況なども確認している。その他、既往歴や体質などを確認しており、食物アレルギー等の対応が必要な際には栄養士が同席して個別の状況を把握している。	
入園直後の子どもと保護者の負担軽減や、利用終了後の支援の継続性に配慮している 面接時に保護者と相談しながら、保護者の仕事復帰の時期を聴き取ったうえで初日や大まかな日程を決めており、開始後の子どもの様子を伝えつつ、保護者と担任で話し合いながら、個別に応じた状況で、新たな環境に慣れていけるように支援している。プレイルームや園庭などを活用しつつ、子どもが落ち着ける場所を使ったり、他の職員もフォローしながらその子に合わせて配慮するとともに、担任との関係構築につなげるように配慮している。利用終了後の支援としては、写真販売のお知らせや運動会への招待など、関係継続に配慮している。	

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリー3の講評			
子どもの成長・発達や家庭の状況を把握し、記録する仕組みを整えている 入園時に把握した子どもの心身の発達や生活の状況、保護者の就労状況等の情報については、定期的に確認し記録する仕組みとなっている。体格的な成長は毎月の身体測定を行って把握している。心身の発達は、保育管理の統合ソフトウェアを用いて、主な発達の現れを記録している。児童票には、発達評価だけでは表しきれない個々の成長や課題、健康等の子どもの姿などを記載している。担当が記入した後は子どもの育ちを多面的にとらえられるよう職員間で共有している。家庭の状況は、日々の送迎時の対話や連絡帳、個人面談などを通じて把握している。 全体的な計画をもとに、各指導計画を策定し、保育を実践している 全体的な計画をもとにして、年齢別の年間を4期に分けた保育計画を策定し、短期的な月間・週間の計画に展開させ、実践につなげる仕組みとなっている。各計画は周期ごとに振り返りを行って、次の計画に反映させることとなっている。また社会的責任や人権尊重のほか、健康や災害への備え、研修計画など園の保育実践を支える項目についても考え方を記している。この計画をもとに年齢別に定める長期の保育計画とより実践的な短期の保育計画を策定している。また、コダーイ理論に基づく「わらべうた」や「課業」の計画も別途作成している。 子どもの状態を職員間で共有し、保育内容を保護者に伝え、理解を得よう努めている 集団としての計画だけでなく、2歳児までと特別な配慮を必要とする子どもに対しては、個人別の指導計画も作成しており、個々の発達や特性に応じた援助につなげている。保育計画や保育内容はさまざまな方法で保護者に伝えている。年2回行われている懇談会では、子どもの姿や育ちの見通しに関する資料を作成して保護者に伝えるほか、個人面談では子どもの伸長点・課題点について伝え、保護者との共通認識を持てるようにしている。その他、ホームページで子どもたちの行事での姿や保育での活動を伝えるブログにも取り組んでいる。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>情報の適切な取り扱いと、子どものプライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っている</p> <p>個人情報やプライバシー情報を外部へ提供する必要がある際には、保護者の同意を確認することとなっている。子どものプライバシーや羞恥心への配慮として、排せつの援助の際には他から見えないような場所で行うほか、身体測定や水遊びの着替えの際にも必ずカーテンで周囲からの視線を遮るようにしている。また着替えの援助の際には上下ともに脱がさないようにし、自分で着替えられる子どもたちにもその旨を伝えている。実際のプールの際には、周囲からプールが覗けないよう、葦簀でフェンスを囲い目隠しを施すなどの配慮をしている。</p> <p>子ども一人ひとりを大切に作る保育の実践と、不適切保育の防止に努めている</p> <p>法人共通の保育の基本として、一人ひとりを大切にすることや子どもの主体性の尊重を謳っており、年度当初の会議では法人の思いを踏まえて園として大切にしていきたいことやその思いを職員に伝えている。日頃の保育にあたってはクラス内で園児の引き継ぎや新入園児の情報を引き続き、子ども一人ひとりへの配慮につなげることを意識しており、担当制による生活面の細やかな支援にも注力している。また外部講師を招き、保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドラインをもとにその理解を深める機会を設けている。</p> <p>各家庭の価値観等を受容した対応に努め、虐待の防止や対応等の備えも行っている</p> <p>保護者の価値観や要望等は入園時やその後のやり取りで把握し、着替えや食事・睡眠といった生活面の意向を踏まえ、園での配慮に反映している。また多様性を尊重し、外国籍の方とのコミュニケーションや宗教上の食事の対応にも可能な範囲で対応している。区の児童虐待発見と対応の手引きとともに、園のマニュアルに虐待の種類や園の役割、見守りのポイントなどをまとめ、万が一の対応に備えている。また虐待の疑いや事例が生じた際には園内での共有や見守り、関係機関との連携を図ることとしており、その対応に関する周知を図っている。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
安全・衛生などマニュアルを作成し、危機管理に関する研鑽と注意喚起を図っている 感染症・衛生管理・災害時対応・重大事故防止などの安全・衛生の部分に加え、苦情解決・虐待防止・個人情報保護などのマニュアルを整え、閲覧できるよう園内に設置するほか、事務所内では119番通報の手順や不審者対応マニュアルを掲示し、随時の対応に備えている。また時期に応じて消毒・清掃や嘔吐処理の手順、食物アレルギーや熱性けいれんの緊急時の対応などの周知を図っている。その他、事故防止委員会が中心となり、ヒヤリハットの提出の促しや傾向を踏まえた注意喚起、危険予知活動による研鑽など、職員の安全意識の向上に努めている。			
所定の項目に基づいた人事考課と、会議や園内研修に取り組んでいる 定期的に理念・方針や保護者対応、職員の姿勢、食事・排せつ・睡眠・人間関係などの共通専門評価と、職位・職責に基づく内容について、自身の振り返りと考課査定を行っており、これによってそれぞれに求められる姿勢や業務水準などを確認する機会となっている。また、状況に合わせて園内研修を実施しており、職員同士のコミュニケーションの促進や気遣い・心配りなどを伝えるほか、会議の際には子どもに対する声のトーンや対応などの留意点を伝え、その徹底を促したり、誤嚥等の報道で寄せられた事故などの注意喚起も行っている。			
アンケートでの意向把握とその後の検討に努め、随時の仕組みの見直しを行っている 法人及び園内での取組等については、それぞれの会議において検討や見直しを図り、各園で展開している。また園内では年度末や随時の機会、必要に応じて重要事項説明書や関連書類、各マニュアルの見直しを行うこととしている。その他、保護者の意見等については、日頃の会話や面談のほか、法人からの保護者アンケート(年2回)や行事後のアンケートなど多様な機会を把握しており、園運営や保育における見直しや改善の参考としている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達や興味を把握し、子どもが主体的に遊び込める環境づくりに努めている</p> <p>子どもの状況は、定期的に行う発達評価や日々の保育日誌、保護者との送迎時の対話と連絡帳のやり取りなどから把握している。子ども一人ひとりの興味・関心などにおいても、クラス担任間で共有するよう心がけている。それらの情報を踏まえて、子どもたちが主体的に遊びに関わることができるよう、適切な玩具を用意するとともに、子どもの動線を考慮したり必要に応じて見直しを行ったり、ままごとのコーナー、子どもたちが自由に遊びを設定できるフリースペースなど遊びごとに空間を分け、子どもが集中して遊び込むことができる環境設定を行っている。</p> <p>子どもの心身の成長発達を促す、玩具の配置や取組に努めている</p> <p>玩具は、子どもの成長・発達を考慮したものを用意している。乳児クラスでは、シフォン布や厚手の布など素材の違う複数のを置くことで、触り心地や重さの違いを感じる体験ができるよう考慮している。幼児クラスでは、子ども自身の想像力や創意工夫する力、バランス感覚などを養ってほしいという思いから積み木を用意している。片づけについては、大人がやって見せることで、子どもたちも自発的に片づけられるよう努めている。</p> <p>子ども同士のトラブルを子ども自身で解決できるよう、学びや体験など援助に努めている</p> <p>かみつきや引っかきなどが見られる子どもに対しては、その子の落ち着ける場所をつくったり、大人の手伝いをしてもらう等の特別感が持てるようにするなど、その子の気持ちを満たすことを大切にしている。幼児クラスでは、子どもたち自身が発生したトラブルについて考え、自分たちで解決できるよう、必要に応じて保育者が援助に努めている。必要に応じて話題の整理・代弁・仲介などの援助を行ったり、皆で話し合う機会を設けたりしている。その中で、それぞれに思いがあることを知り、思いの伝え方や関わり方を体験から学べるように努めている。</p>			

2 評価項目2		標準項目	評点(〇〇〇〇)
評価			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
<p>登降園時に保護者と子どもの情報を伝え合い、組織内の情報共有の仕組みも整えている</p> <p>登園時には、保育者が子どもの顔色や機嫌、発熱の有無、目に見える範囲の傷の有無などの視診を行うほか、保護者から子どもの健康面や情緒面などの聴き取りを行っている。また2歳児までは連絡帳に記入された内容も確認している。これらの内容は、職員間の口頭伝達のほか、記録簿を各クラスごとに用意して記録・共有している。降園時にはできる限り子ども一人ひとりのエピソードを伝えられるよう心がけ、担任以外の職員が担当する場合であっても、保護者に必要な情報を伝えられるようにしている。3歳以上児については活動報告を玄関前に掲示している。</p> <p>発達状況や意欲を踏まえた応答的なやり取りを通じ、身辺自立への援助を行っている</p> <p>2歳児までは育児担当制を採り入れており、子ども一人ひとりの性格や発達をより深く理解し、信頼関係を築いた職員が食事・排せつ・衣服の着脱といった生活面での援助を行い、子どもたちが安心感を得ながら所作を習得できる環境を保障している。応答的な関わりを心がけ、安心して大人と関わりを持つ経験を重ねることで、人との関わりを主体的に持つことのできるコミュニケーション力や、人への関心を寄せる心の基礎を育てている。2歳児までの丁寧な援助による生活能力の確立と、意欲的な活動のよりどころとなる自己肯定感の育みを大切にしている。</p> <p>子ども一人ひとりの成長発達、生活リズムに応じた休息を取れるようにしている</p> <p>子どもの発達・体調に応じた睡眠時間やスペースを確保できるようにしている。0歳児室では個別のベビーベッドを用意しており、午前寝や夕寝においても、自分の場所で安心して眠ることができるよう配慮している。必要に応じて、食事や睡眠時間など子どもの成長発達や生活リズムの変化に合わせて、日課の見直しを行っている。午睡は身体を休める時間として採り入れており、無理に眠る必要はないが、子どもたちに睡眠の必要性を伝え身体を休めるようにしている。必要に応じて子守唄を歌ったり、個々のリズムや好みを踏まえた援助を行っている。</p>			

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが自発的にさまざまな遊びを選び、楽しめるよう環境構成の工夫に努めている</p> <p>子どもたちが自発的・自主的に遊びを選び、遊び込める環境構成の工夫に努めている。子どもの発達や興味に応じたものを用意したり、掲示したりすることで、好奇心の広がり、探究心の深まりを促し、大人の都合で子どもの遊びや活動が細切れにならないことがないよう、時間的な配慮にも取り組んでいる。遊びが必要以上に混じらないよう柵や机を配置するなど、空間構成の工夫にも努めている。ままごとコーナーではさまざまなものに見立てられる抽象的なものを数や量に変化を持たせ置いている。季節や興味に合わせて絵本の内容を変えるなどの工夫に努めている。</p> <p>さまざまな遊びの中から、言葉を使って表現することを体験できる機会を設けている</p> <p>子どもたちの遊びを通して、子どもの発語を促し、自分の考えを言葉で表現することの楽しさや、相手とコミュニケーションを取ってわかり合う喜びを体験できるような活動や環境構成を行っている。ボードゲームなど小集団でのやり取りを楽しめるような遊びの環境を用意したり、わらべうたを通して、日本語表現や独特のリズムに触れたり、0・1歳ではスキンシップやコミュニケーション力を育むほか、2歳以降になるとルールを守って遊ぶ楽しさや大切さを学んだり、他者と関わる力を育み、集団で活動することの楽しさを体験できるよう努めている。</p> <p>子どもが主体的に取り組む、言葉の感覚を身につけられるよう努めている</p> <p>子どもがさまざまな経験を認知につなげてゆけるよう「課業」と呼ばれる活動を展開している。美術・文学・数・わらべうた・環境認識など、それぞれの活動を通じて、子どもたちの日々の経験に基づく思考の抽象化や整理を学び、身の回りの環境認識につなげられるよう取り組んでいる。子どもたちの経験を認知につなげてゆくことで、新たな興味や関心を促している。これらの活動は、子どもたちが主体的に参加することを大切にしており、子どもたちの体験の機会が失われないよう、無理強いとならないよう配慮しつつ、声かけを行うようにしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は、子どもたちが経験したことや友達と協力する姿を表現する機会となっている</p> <p>行事は、行事のために活動を計画するのではなく、日常の保育の中で見られる子どもたちの興味関心や、子どもたちが楽しんでいることなどの延長線上にあるものと捉えている。子どもたちが主体的に友達と協力し、創意工夫しながら一つのものを作り上げる中で、成功や失敗を繰り返し経験することで、さまざまな課題を乗り越える機会となっている。行事への取組は、課業や日々の遊びを通じて認知したことや道具・技法などを活用しながら、子どもたちの頭の中にあるそれぞれのイメージや経験したことを具現化する表現活動にもなっている。</p> <p>行事を通じて、子どもたちがさまざまな課題を克服する成長の機会となっている</p> <p>幼児を対象として行う「運動会」は、親子で身体を動かす多様な活動内容を楽しむ場となっており、保護者に子どもの成長を伝える機会にもなっている。運動会本番に向けて、子どもたちは遊びを通して、競技の準備をすることで期待感を高めている。今年度は5歳児がリレーやフラッグ、4歳児がパラバルーンなどに取り組み、準備を行っていく中で、表現する方法を子どもと保育者が一緒に考えたり、友達と協力をしたり、さまざまな創意工夫や勝ち負けなどを通じて、人との関わりや心の折り合いなど、さまざまな課題を克服する成長の機会にもなっている。</p> <p>季節感のある活動や行事を行うことで、保育に変化と潤いをもたらしている</p> <p>季節感のある活動や行事に取り組んでおり、夏祭りごっこやハロウィン、お楽しみ会などを行っている。行事では習わしや由来を伝えたり、行事食を提供するほか、5歳児クラスではカレンダーを掲示し、行事の予定や子ども一人ひとりの誕生日を記載したりすることで、行事や自身の誕生日に対する期待感を高める取組をしている。また、園の畑を利用し、子どもたちが考え選んだ野菜を、子ども自身が世話をし、ここで育てた小松菜を秋の「芋煮会」で調理して食べたり、ニジマスのつかみ捕りを行ったりと、自然と関わる活動も大切にしている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもが、集中して遊び、健康的に過ごせる環境づくりに努めている</p> <p>子どもたちが好きな遊びを選択できる環境を構成するとともに、子ども自身が集中してじっくりと遊び込める時間を確保することを大切にしている。室内では、机上でボードゲームや制作などの遊びに取り組んだり、可能な限り園庭に出て身体を動かす活動をする時間も確保したりと、1日の中で子どもたちが、静と動のバランスを保てるような工夫や働きかけを行っている。また、子どもたちの興味関心や成長発達に合わせて、室内のレイアウトや玩具に変化を持たせることで、子どもたちが飽きることなく遊べる環境づくりに努めている。</p> <p>延長保育の時間を、日常と同じように安心して過ごせる環境づくりに努めている</p> <p>延長保育にかかる時間帯においては、各クラスが集まって行う合同保育ではなく、可能な限り子どもが日常を過ごしている、それぞれのクラスで行うように努めている。普段から一緒に過ごす保育者がそばにいて変化を最小限にし、延長保育用の玩具や、1対1での関わりを増やすなど特別感を出すことで、子ども自身が安心して過ごせるように努めている。また、情緒面に不安がある場合には、子どもたちの話に耳を傾け、保育者が絵本を読んだり、わらべうたを歌ったり、スキンシップを図るなどして、子どもが安心できるよう関わっている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>落ち着いた雰囲気の中で、子どもたちの生活リズムに合わせた食事の提供を行っている</p> <p>2歳児までは育児担当制を導入しており、子どもが安心できる大人と家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて食事を取れるように心がけている。3歳児以上では、給食時間内であれば、空腹を感じた時に食べにきたり、遊びがひと段落してから食べにきたりと、自身の生活リズムに合わせて食事を摂ることができるようになっている。5歳児はバイキング形式となっており、自分で食べられる量を判断し自分で盛り付け、食べきるという達成感を持てるようになっている。子どもたちの好き嫌いにも丁寧に寄り添い、必要に応じて援助している。</p> <p>献立は和食を中心としており、子どもたちが多様な食文化に触れる機会も設けている</p> <p>給食は和食が中心のメニューとなっており、旬の食材を積極的に採り入れるようにしている。味つけも、自然の素材の出汁を使用することで、出汁の効いた食材本来の味を活かすものとなっている。また月に1回程度、日本の郷土料理や世界の料理を献立に採り入れることで、多様な文化に触れる機会を設けている。季節の行事やイベントの際には行事にまつわる料理を提供することで、子どもたちの行事に対する期待感を高めたり、視覚的にも楽しむことができるようにしたりするほか、その由来や料理に込められた思いなども伝えるようにしている。</p> <p>食物アレルギー対応や離乳食の提供では、安全の確保に向けた対策を講じている</p> <p>食物アレルギー対応では、医師の指示書をもとに除去食の提供を行っており、毎月保護者と献立を確認し、別トレイの使用や着座の位置の工夫、配膳提供時までの各段階における複数名による確認など、誤食や誤配の防止に努めている。離乳食は食材調査表を保護者とやり取りし、咀嚼や嚥下の状況を踏まえて子どもにとって無理のないペースで進められるようにしている。子どもたちの喫食状況などの情報を給食会議などで共有し、献立や食事の準備を行っており、子どもの食欲や体調に応じて配膳の量を調整するなど調理者と保育者で配慮している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが清潔にする心地よさを感じることから始め、習慣づくような支援を行っている</p> <p>0歳児からおしぼりで手を拭くことを始め、その後は子どもたち自身が園庭の活動後や排せつ後など生活の場面ごとで手洗いを行っており、日常的に目にふれるようイラストを掲示している。生活の中で汚れたり汗をかいたら着替えをするほか、喉が渴いた時に自由にお茶が飲めるようにしたりと、自分たちでできる環境を整えつつ、大人から声をかけている。また区の歯科衛生士による歯磨き指導があり、子どもたちが歯の大切さや歯磨きの仕方などを学ぶほか、看護師の指導の際には手洗いの方法や自分の身体を大切にすることなどを伝えたりしている。</p> <p>遊びや体験を通じて、身体の使い方や危険回避の力を養えるようにしている</p> <p>子どもたちが遊びの中で身体の使い方やバランス感覚などを獲得できるよう、さまざまな遊びができる道具等を準備したり、「コーディネーション運動」を採り入れている。また、園庭ではタイヤを3段以上積まないこと、乗り物での遊び方や乗り方、ボールで遊ぶ場所など、年度当初やその都度のタイミングで、子どもたちにそのルールを伝え、自分で意識したり、日々の経験を重ねることで危険回避の力を養えるようにしている。また区との連携を図り、裏の公園で地震車の体験を行っており、5歳児が地震の際の身の守り方を教えてもらっている。</p> <p>専門家や保護者との連携を図り、子どもの健康状態の管理や維持・向上に努めている</p> <p>定期的に嘱託医が来園する機会があり、子どもの健康状態や発育の状況等を確認・記録するとともに、随時の相談が可能となっている。また歯科検診や尿検査のほか、園で身体測定を実施している。この結果は所定の様式や「健康カード」を用いて保護者に報告している。緊急時の対応に備えて病院リストを作成するとともに、ケガや体調不良などがあれば、看護師に相談したうえで、対処することとしている。その他、保健だよりを毎月発行し、感染症の予防や健康管理などの情報提供を行うほか、園内で感染症が発生した場合、掲示や連絡アプリで知らせている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労や子育ての事情を把握し、それぞれに応じた支援と負担軽減に配慮している</p> <p>保護者の子育てや就労等の事情は日頃のやり取りや面談等で把握しており、お迎えの際に職員以外の主任・副園長・園長なども保護者に声をかけ、育児の悩みや相談などを行ったり、別日に時間を設けてじっくりと話ができるようにしている。また希望者を対象として個人面談を実施し、これらを通じて園と家庭での状況を共有し、園生活での可能な配慮に活かしている。延長保育のスポット利用を受け付けており、可能な範囲で補食の提供を行うほか、保護者への連絡アプリでの連携、園で準備したエプロンとおしぼりの提供など、負担軽減の配慮もなされている。</p> <p>保護者懇談会、運動会や「大きくなったねの会」等が保護者の交流の場となっている</p> <p>保護者懇談会、幼児の運動会や「大きくなったねの会」などは保護者が参加しており、その際に保護者同士の会話や関わりがもたれている。保護者懇談会では簡単な自己紹介をしながら、職員と保護者、保護者同士の顔合わせの機会とするほか、年度後半の開催時には意見交換の時間を設けている。また運動会では保護者も楽しんでもらえるよう、親子競技をしたり、希望者を募ったクラス対抗の保護者リレーを行うという工夫をしている。「大きくなったねの会」では劇遊びやわらべうたなどを見てもらおうなどしており、これらの機会が交流の場となっている。</p> <p>子どもたちの日頃の姿や活動の様子などを、さまざまな方法で伝えている</p> <p>日々の子どもの様子はアプリの連絡帳機能の活用や、幼児での「今日の活動の様子」の掲示と配信で、保護者に伝えている。またクラスだよりは定期的に作成し、季節ごとの子どもの活動やその時の姿などを知らせるほか、随時の写真販売や保護者懇談会での年齢や発達に応じて内容の話をするなど、さまざまに知らせている。園では日常生活や活動を大切にしており、感染防止等にも配慮しつつ、今後は保育士体験や保育参観など、園内の様子が保護者により伝わるような取組の参加促進や開始のための検討を進めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが地域の方と関わりを持ったり、さまざまな体験ができるようにしている</p> <p>地域資源を活用し、3歳児が四本木神社で地域の方と交流をしたり、芋掘り体験を行うほか、近隣の小学校との連携を図り、5歳児が小学生とのやり取りを楽しみ、就学に向けた期待感を高めている。また夏にはプールでニジマスのつかみ取りを体験するほか、卒園遠足では公共交通機関を使用し、水族館で海の生き物を観察するといった経験も得られている。その他、外部講師の「コーディネーション運動」や「ハッピータイム」、ボランティアの受け入れのほか、園開放で招いた方と子どもとの自然な関わりや同じ空間を共有する機会が持たれている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子ども自身の心身の成長や、知的好奇心を高める取組に努めている	
内容①	子どものリズムやバランス感覚といった各能力を養い、体力・知力・社会性を育む「コーディネーション運動」や、年長児の就学に向け、ゲームや遊びを通してさまざまな人と関わることを経験し、声のかけ方や言葉の選び方、人と関わる力や情緒の成長を育む「ハッピータイム」など、外部講師を招いた活動にも力を入れている。このほかにも、わらべうたや造形遊びといった活動も採り入れ、子どもたちが心身ともに成長する機会を設けている。参加は自由で無理強いはいしませんが、子どもたちが「やってみたい」と思えるような働きかけを心がけている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者に子どもの様子や保育に関する内容などをさまざまに伝えている	
内容②	クラス懇談会では視覚的に伝わりやすい工夫しながら、子どもの様子や発達の特徴、園で大切にすることなどを説明するほか、幼児の「コーディネーション運動」や「ハッピータイム」などの取組のねらいや意味なども伝えている。また日々の子どもの様子はアプリ連絡帳でのやり取り、幼児での「今日の活動の様子」の掲示と配信で伝えており、クラスだよりを定期的に発行することで、季節ごとの活動や子どもの育ちも知らせている。その他、希望があれば保育参観を受け付けており、園の保育や子どもの様子を保護者が見ることができるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル③	保護者や地域との関係づくりや職員育成など、方向性を示しつつ園の運営にあたっている	
内容③	公立園から運営を引き継いで2年目を迎える当園では、保護者との信頼関係の形成に向け、園の運営や保育内容に関する発信等に努めている。地域にある園として、園庭・室内開放等の地域の子育て支援に取り組むほか、地区の青少年委員会への参加や神社を管理するボランティアとの交流等を図っている。また、法人が目指す保育の定着に向け、環境の整備や職員の育成に取り組んでおり、職員が方向性を失わず迷わないよう、年度当初の会議等で、事業計画の共有や園長の所信表明を通じて説明し、園の運営に取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ニジマスのつかみ捕りや、成長発達に合わせたままごと遊びの環境構成は、子どもの食に関する興味や生活習慣の自立につながっている
	内容	食育の一環として、ニジマスのつかみ捕りの機会を設けており、生きている魚に触れたり、魚の生態を知る体験をしたり、調理担当者が捌く様子を観察し内臓の位置を認識したり、どのような過程を経て食べ物になっていくのか、そしてそれを食事としていただくことを通じて、命の大切さを伝えたりということを活動のねらいに定めて取り組んでいる。また、実際の食事の場面だけではなく、ままごとなどの遊びの環境に、年齢や成長発達に応じた見立て遊びのできる玩具や食器などを置くことで、遊びを通して身辺自立につながるような環境構成を行っている。
2	タイトル	子どもたちの行事に対する興味関心を高める工夫や、子どもたちが主体的に行事に関わりたくなる環境構成に取り組んでいる
	内容	子どもたちの成長を感じられる行事の一つに「大きくなったねの会」があり、題材を複数の候補の中から子どもたちと保育者が話し合い決定している。今年度の年長児は「じゅげむ」という落語を題材とした演劇に取り組んでおり、練習に無理矢理参加させたりするのではなく、普段から絵本の読み聞かせをしたり、クラスの本棚に台本を置いたりすることで、子ども自身が興味関心を持ち、主体的に準備に関われるような工夫をしている。なかなか劇に参加しながらいない子どもに対しては家庭と協力し、できることから関われるような配慮に努めている。
3	タイトル	保護者の利便性の向上や意見等を踏まえた改善など、より良い園運営に努めている
	内容	保護者の就労と育児の両立支援に向け、延長保育のスポット利用や可能な範囲で補食の提供を行うほか、保護者への連絡アプリでの連携、園で準備したエプロンとおしぼりの提供、週明けの準備の軽減などの利便性の向上と負担軽減などを行っている。また法人及び園の行事後の機会では保護者に対してアンケートを実施し、意見等を把握したうえで、それに対する課題検討を経て、可能な対応や改善に努めている。その他、子どもの活動・体験の充実や、行事の際の保護者参加などの工夫など、より良い園運営のための取組を進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	目指す保育の定着に向け、法人の理念やその実践にあたっての職員間の理解を深めるための今後の工夫を期待したい
	内容	系列各園からの異動や新規に採用した職員で構成する体制で公立園からの運営を引き継いで2年目を迎える当園では、法人が目指す保育の定着に向け、職員への法人の理念方針等の理解浸透や保育の実践にあたっての指導のほか、保育環境の整備に取り組んでいる。法人が目指す保育の定着については、根拠の提示や経営層の指導を通じた職員間の目線合わせなど、さらなる工夫の必要性を感じており、今後の法人の目指す保育の定着に向けた園の今後の工夫を期待したい。
2	タイトル	運営上の変化に合わせた内容や現場の思いを具現化するための手引きの整備を進めつつ、これらの周知を図りたい
	内容	これまでの公立園の保育や行事などを踏襲しつつ、法人の理念・方針に基づく保育実践を採り入れており、段階的に活動内容や行事などにも反映されている。上記の目指す保育の目線合わせを進めているところであるが、これを支えるための職員の所作や配慮、具体的な展開など、外部講師による指導や研修内容などを引き継ぎ、確かめ合えるような工夫には一考の余地がある。その他にも、運営上のさまざまな変化が生じてくる中で他のマニュアル等の作成や見直しも併せて取り組み、これらの周知がなされることに期待が寄せられる。
3	タイトル	運営開始2年目を迎える当園では、保護者との信頼関係をさらに深めたいと考えている
	内容	昨年度から指定管理者として、公立園からの運営を引き継ぎ、2年を迎えた当園では、保護者との信頼関係の形成に取り組んでいる。運営を引き継ぐ前の年度末には保護者説明会を開催し、運営開始後には書面等で職員配置や保護者からの質問や意見に対する回答を行うなど丁寧な対応に努めている。一方で、保育面に対する保護者の理解をさらに深める必要性を経営層は感じており、法人が目指す保育の実現に向け、保育や取組の各ねらい等を発信したいと考えている。保護者とのさらなる信頼関係の形成に向けた、発信の充実等の工夫を期待したい。